

# 愛媛大学・愛媛県中小企業家同友会景況調査報告(EDOR)

## 第6回(2004年7-9月期)

愛媛大学総合地域政策研究会・愛媛県中小企業家同友会共同実施

問合先:愛媛県中小企業家同友会 tel.089-968-8802

愛媛大学松本朗研究室 tel.089-927-9237

文章:川口和仁(愛媛大学)、統計:佐藤智秋(愛媛大学)

### 県内中小企業に景気回復の波いまだ届かず

#### 【調査要領】

(1) 調査期間	2004年9月6日～9月27日
(2) 対象企業	愛媛県中小企業家同友会会員企業
(3) 調査方法	郵送による自計記入
(4) 回答企業数	調査対象企業数260社、回答企業数167社(回答率64%) (内訳 建設22社、製造34社、流通・商業59社、サービス52社)

#### 【経済概況】

9月の日銀短観によると、前回(6月)から引き続き、大企業・製造業を中心とした景気回復の動きは堅調である。9月短観では、全規模・全産業の業況判断指数が12年半ぶりにプラスとなり、中小企業や非製造業にも景気回復の動きがようやく波及しつつあることを裏付けた。

一方、個々の業種を見ると、建設業、小売業の業況判断指数は、ほぼ横ばいであるもののマイナスが続いており、業種間の足並みが揃ったとは言い難い。また、8月の失業率は、15ヶ月連続で改善したが、若年層では、いまだ10%を超えており、厳しい雇用環境が続いている。さらに、原油価格の上昇や米国経済への先行き不安から、景気回復を牽引してきた製造業の先行き予測は悪化している。このように、全国的な景況は、まだまだ楽観できる状態にはない。

次に、愛媛県内に目を向けてみると、日銀松山支店9月短観では、全産業ベースで景況感の改善が示された。もっとも好調なのは製造業で、業況判断指数が、1992年2月以来最高の水準(21%ポイント)に達している。これに対し、非製造業は、ほぼ横ばいとなっており、おおむね全国に準じた結果となっている。

こうした結果に対して、われわれの今回の調査結果では、力強い景況感の回復はみられなかった。この点は、日銀による非製造業の業況や中小企業庁の調査とも同じ傾向を示している。大企業と中小企業、都市圏と地方圏の景況の「二極化現象」が、今回も観測されたといえる。こうした「二極化」をどのように脱するか。総合的かつ戦略的な政策立案が求められる。

## 【調査結果概要】

### (売上高、採算、採算水準、業況)

全業種で見ると、売上高、業況判断のDIは、ほぼ横ばいであるが、採算DIが、前期比、前年同期比ともに悪化した。採算悪化の原因としては、原油価格上昇と大型台風の直撃による仕入、原材料価格の値上がりと考えられる。

次期見通しについては、年度末に向かって強気の売上予想が見られるが、それ以外の指数はほぼ横ばいとなっている。

続いて業種別のDIであるが、業況については、ほぼ全業種で横ばいという結果が出ている。米国、アジア向け輸出の拡大に支えられてきた今回の景気回復であるが、2001年の「事業所・企業統計調査」を見ても、中小企業の7割近くは、卸売・小売業、飲食店、サービス業であり、製造業は全体の1割程度に過ぎない。したがって、そもそも中小企業の中で輸出拡大の恩恵を直接に享受する企業の割合は低いと考えられる。本調査でも、流通、サービス業の占める割合は高く、輸出主導の景気回復が、県内中小企業を巻き込んだものとなるにはまだまだ時間がかかると推察される。そんな中で目を引くのが、製造業の採算DI(前期比)の低下、建設業の業況判断(2)(前期比、前年同期比)の改善である。

製造業の採算悪化については、前述のとおり、仕入、原材料価格の値上がりが原因とも考えられるが、前年同期比の採算DIは逆に上昇しており、昨年も、売上高と採算に関し、7~9月期の悪化、10~12月期の大幅な改善という動きが見られた。これらは、季節性による現象の可能性もある。季節調整にはデータの蓄積が不可欠なので、今後の動きをさらに注視していきたい。建設業の業況判断(2)の改善は、来年の住宅ローン減税縮小を見越した駆け込み需要による新設住宅着工戸数の増加が原因と見られる。

### (経営上の問題、力点)

経営上の問題点としては、前回までの調査と同様、同業者相互の価格競争の激化、民間需要の停滞を挙げる企業が多かった。1996年ごろから県内総生産が停滞し続ける中で、中小企業間では、限られたパイを奪い合わざるを得ない状況が続いている。

今回特に注目すべきなのは、仕入単価の上昇、仕入先からの値上げ要請、販売先からの値下げ要請など、企業間取引における価格決定を問題視する企業が増加したことである。これらは、直接的には、台風による食材価格の上昇(外食産業)や、原油価格の上昇(その他の企業)が一定の悪影響を及ぼしていると考えられる。その一方で、「価格競争の激化」が傾向的に下落している点を加味してみると、中長期的な傾向としてはデフレの出口が見え始めた可能性もある。

経営上の力点を見ると、新規受注の確保、付加価値の増大、社員教育が、前回調査までと同様上位であるが、情報力強化、研究開発を挙げる企業も増えている。新たな市場を開拓し、これまでの取引関係から脱却しようという強い意志の現れであり、注視すべきであろう。

### (特別調査)

今回は、特別調査として「第2回 金融状況」の調査を行った。第1回調査(2003年7~9月期)と比較すると、無借金企業の比率がかなり低下(29.3% 18.0%)した。借入先としては、短・長期資金とも地銀と第2地銀が合わせて7割以上と圧倒的に多く、長期資金では、短期資金にくらべて

政府系金融機関の比率が高くなっている。規模別 DI では、小規模な企業ほど資金繰りに苦しんでいる様子が浮き彫りになっているが、従業員数 1～9 人の企業が、政府系金融機関をよく利用しており、政府系金融機関が、地域金融において固有の役割を果たしていることが分かる。

前年同期比で借入金が増えたとする企業も多くみられる。金融機関との関係は保ちつつ財務体質を強化しようとする意識が高まっているようである。しかし、このことは一方で、資金繰りの難度を高めることにつながっている。県内中小企業が相当の厳しさの中で財務体質強化に努力している姿が見えてくる。

借入難度について見ると、前回調査よりも容易と答えた企業の比率が増えており、特に、前回調査で困難と答えた企業の多かった建設業の資金調達が、大きく改善しているようである。一方で、サービス業の借入難度が悪化しているが、これは、規模別 DI で見ると、従業員数 1～9 人の企業の資金繰りが極端に悪く、この最小規模の企業の比率がサービス業でもっとも高くなっているためであろう。

## 第6回(2004年7-9月期) EDOR 調査結果

### 回答企業の基本情報

#### 業種(4業種分類)

	社	%
建設業	22	13.2
製造業	34	20.4
流通・商業	59	35.3
サービス業	52	31.1
不明	0	0.0
合計	167	100.0

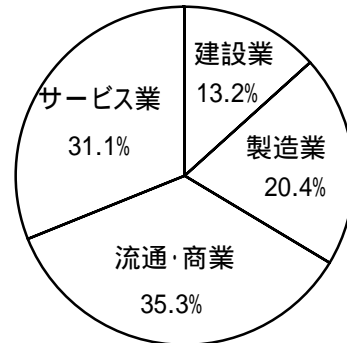
#### 常勤役員を含む正規従業員数

	社	%
1～9人	70	41.9
10～19人	29	17.4
20～49人	41	24.6
50～99人	16	9.6
100人以上	11	6.6
不明	0	0.0
合計	167	100.0

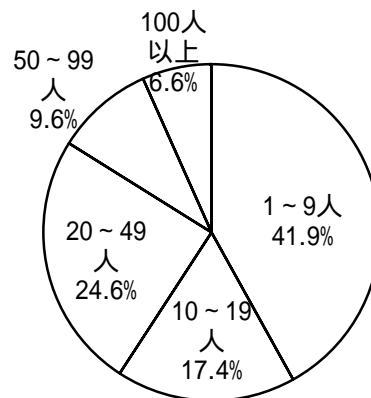
#### 臨時・パート・アルバイト数を含む総従業員数

	社	%
1～9人	55	32.9
10～19人	31	18.6
20～49人	43	25.7
50～99人	21	12.6
100人以上	17	10.2
不明	0	0.0
合計	167	100.0

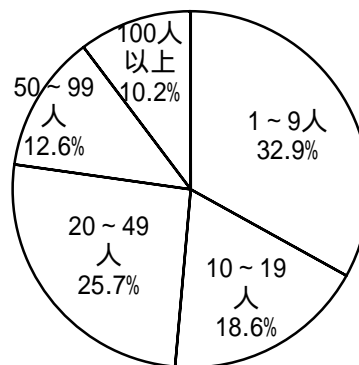
4業種別割合



正規従業員数



総従業員数

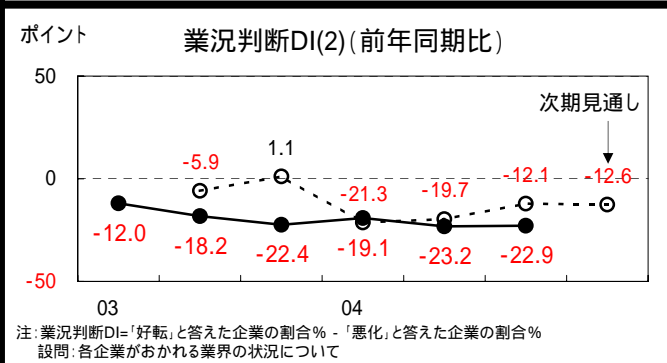
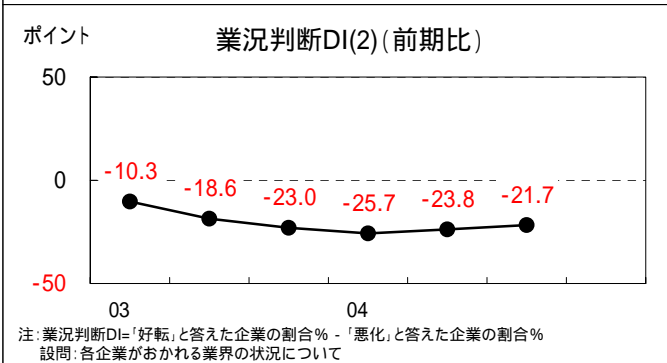
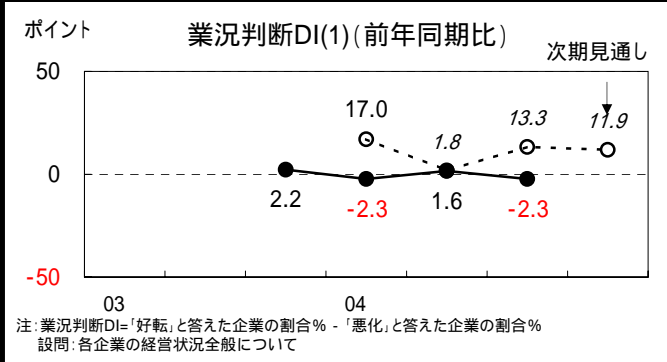
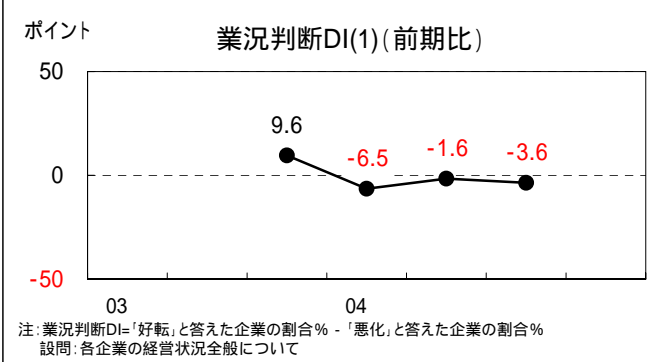
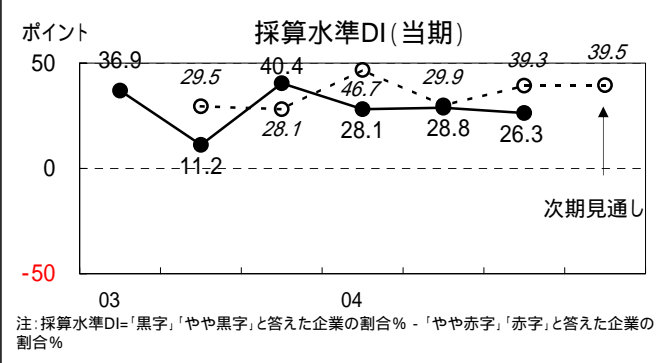
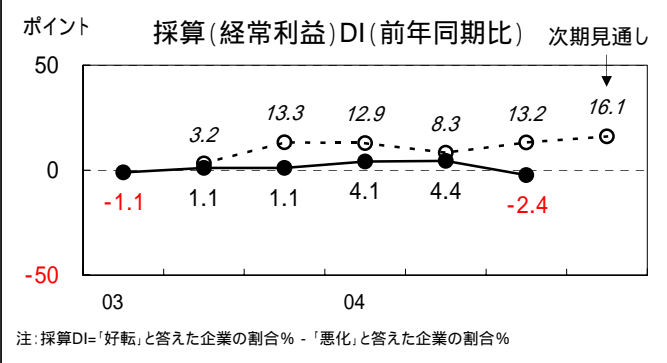
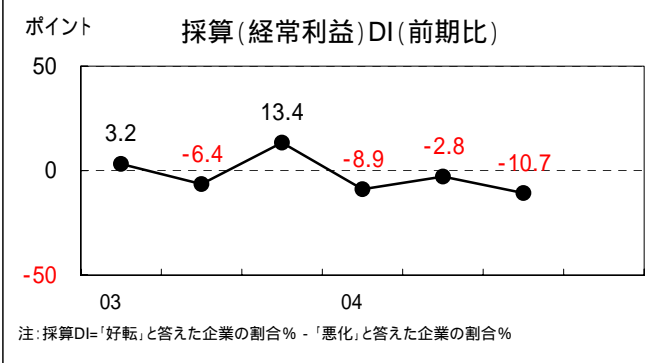
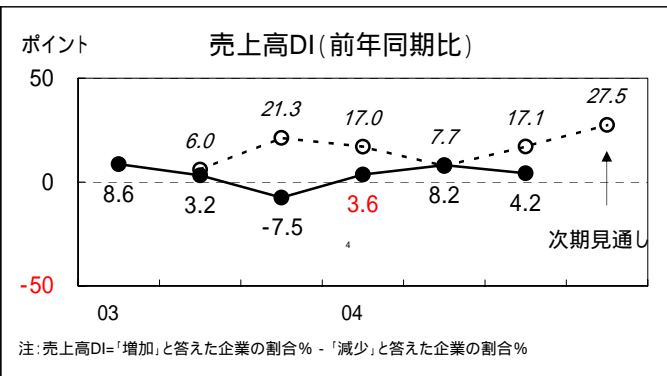
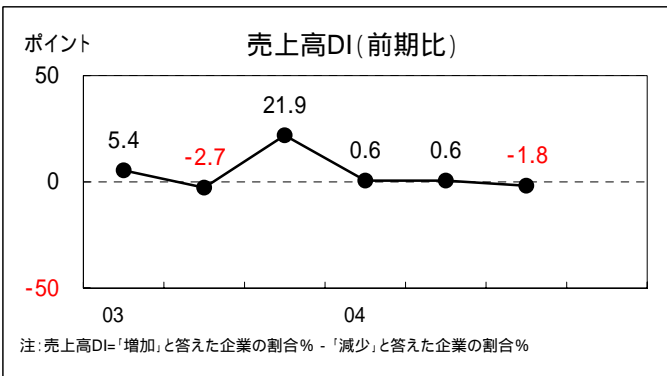


#### 常勤役員を含む正規従業員数 × 業種

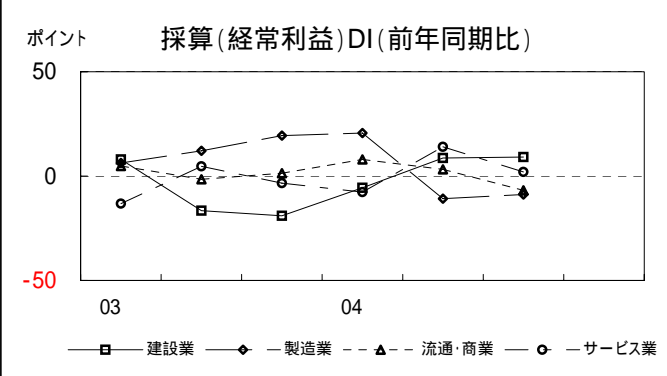
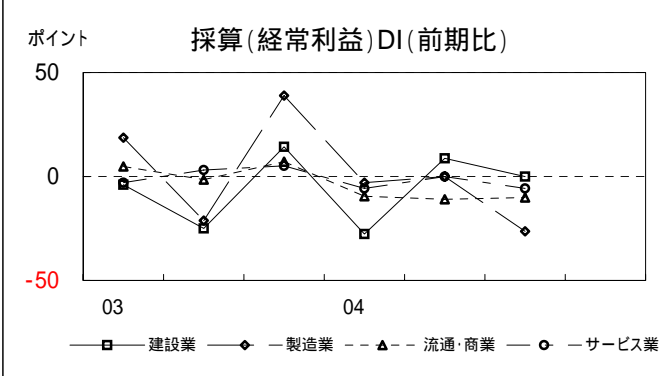
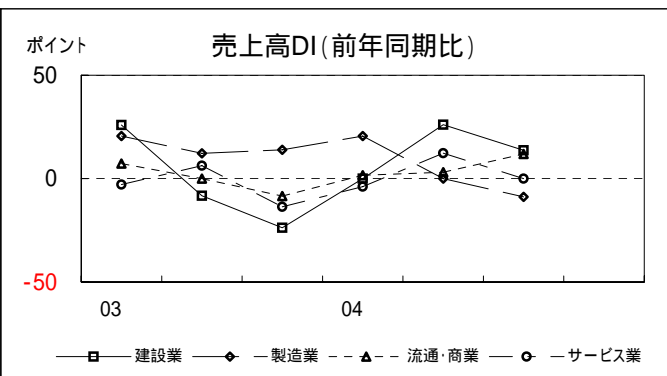
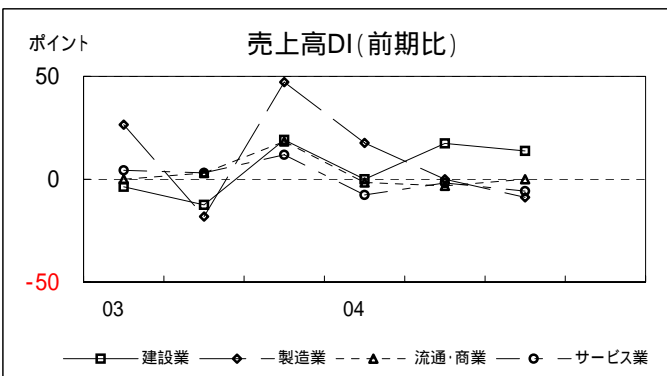
	1～9人	10～19人	20～49人	50～99人	100人以上	合計
全体	70	29	41	16	11	167
建設業	11	5	5	1	0	22
製造業	10	5	8	6	5	34
流通・商業	24	9	17	5	4	59
サービス業	25	10	11	4	2	52

(社)

売上高DI、採算DI、採算水準DI、業況判断DI(1)、業況判断DI(2) (全業種)



売上高DI、採算DI、採算水準DI、業況判断DI(1)、業況判断DI(2) (業種別)

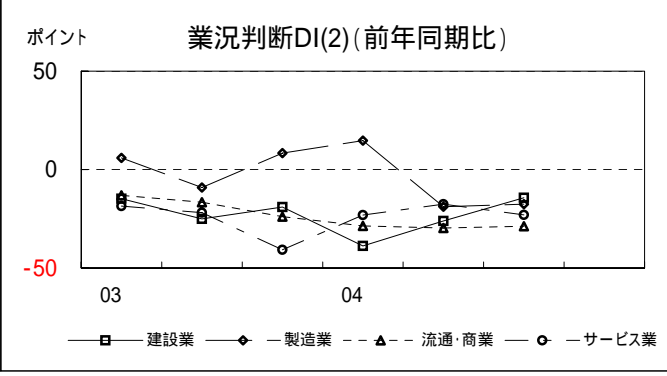
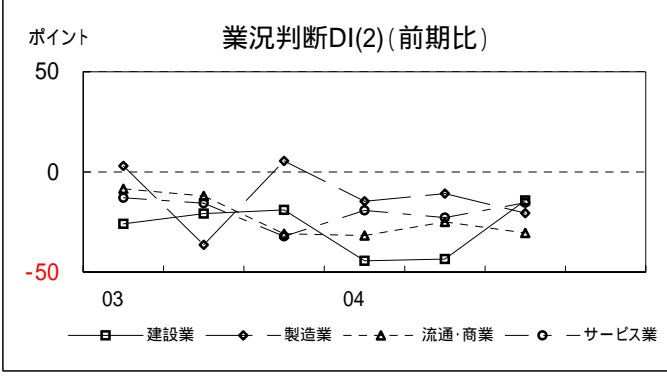
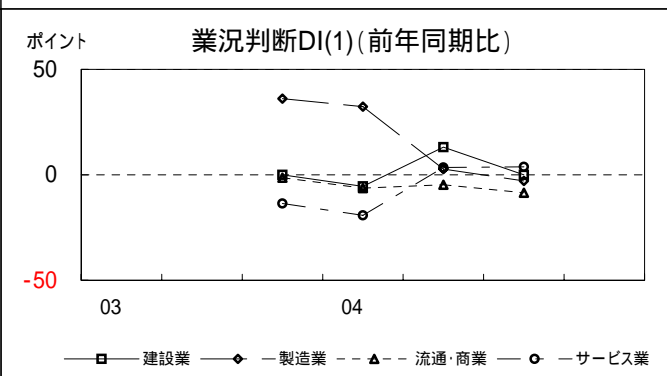
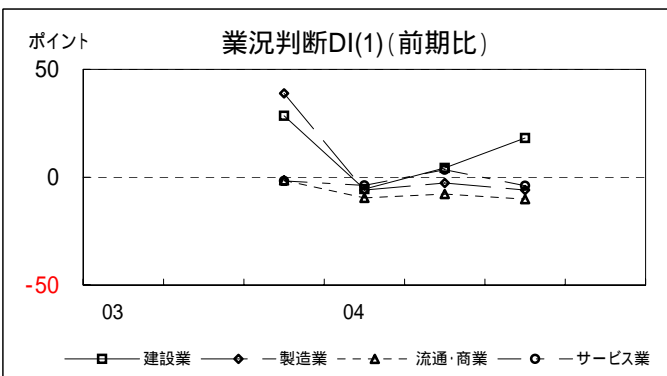
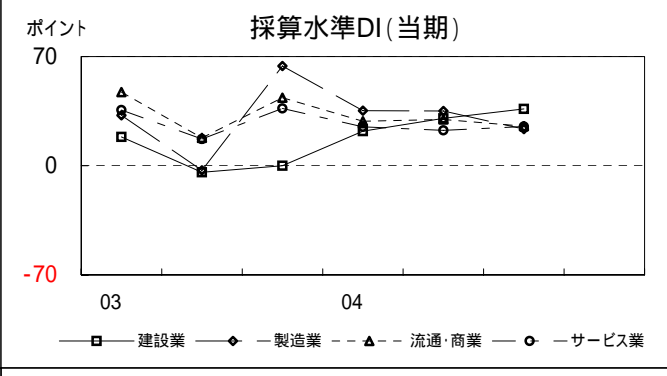


(注) 業種分類方法の変更について

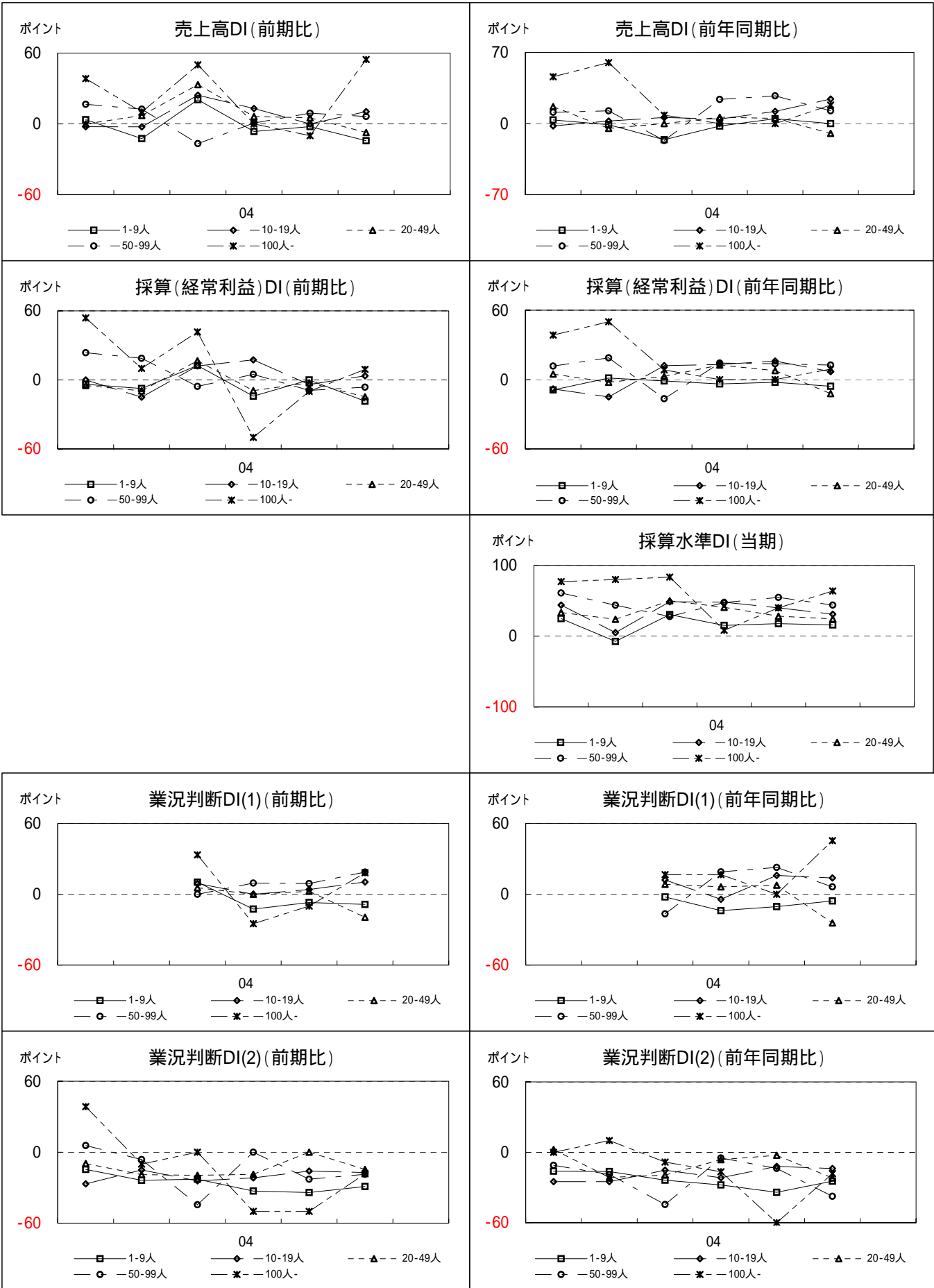
第1回から第4回調査までは、回答者に4業種の中から自社の業種を選択してもらう方法を採用していた。

第5回調査からは、業種分類の正確性を高めるため、回答者に「主な仕事の内容」を記入してもらい、その内容から集計する側で業種を割り当てる方法に変更した。

第6回の公表から、すべての数値を新方式にもとづき改訂している。

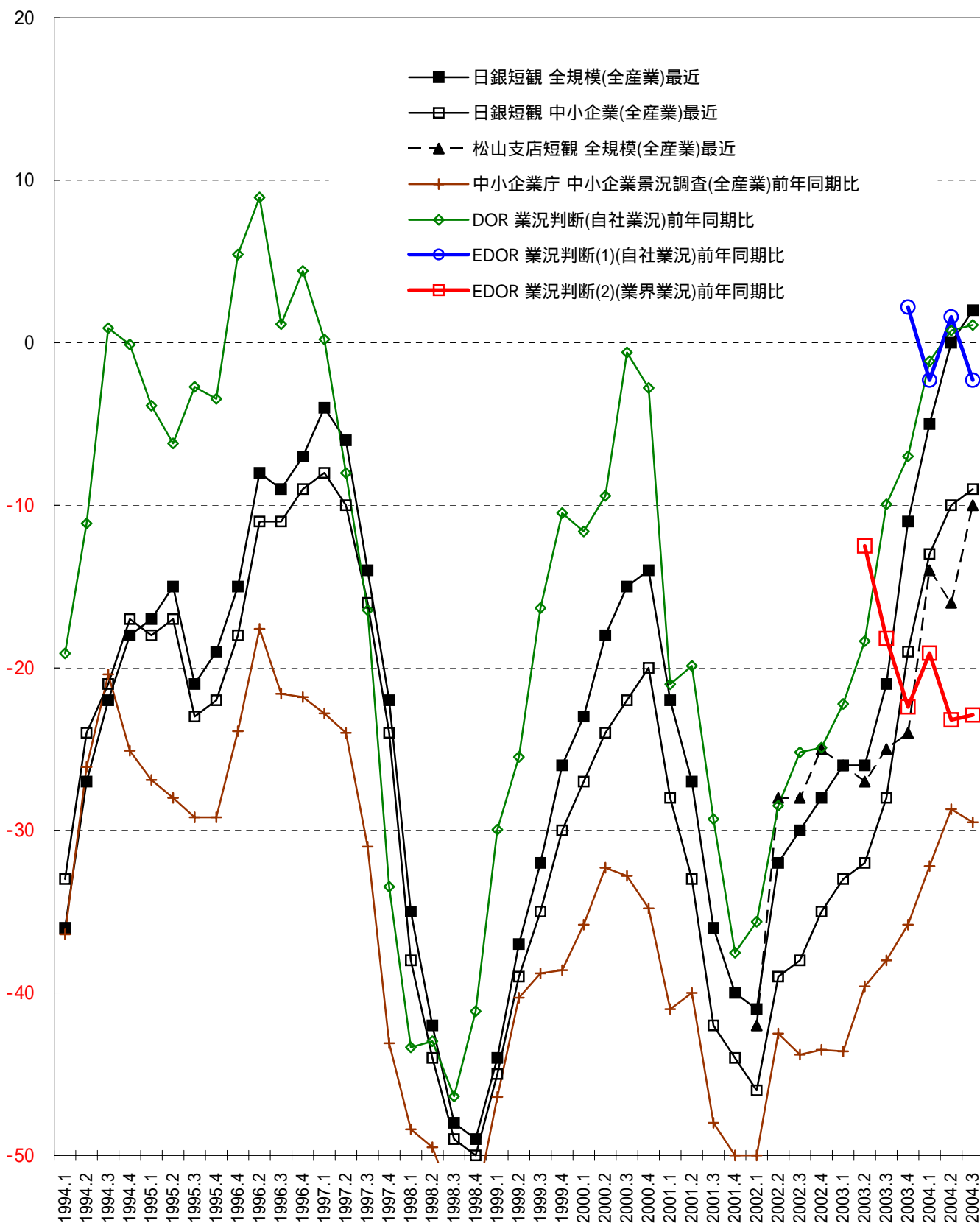


売上高DI、採算DI、採算水準DI、業況判断DI(1)、業況判断DI(2) (規模別)



# 主要景況調査の業況判断DI

ポイント



(備考) 日銀短観(時系列, [http://www.boj.or.jp/stat/stat\\_f.htm](http://www.boj.or.jp/stat/stat_f.htm)), 日銀松山支店短観(<http://www3.boj.or.jp/matsuyama/document/document.html>), 中小企業庁中小企業景況調査(<http://www.chusho.meti.go.jp/chousa/index.htm#keikyo>), 財務省景気予測調査(<http://www.mof.go.jp/bos/1c003.htm>), その他より作成.



売上高DI、採算DI、採算水準DI、業況判断DI(1)、業況判断DI(2) (業種別)

売上高 (%)	2004年4月～6月と比べて (前期比)				2003年7月～9月と比べて (前年同期比)				2004年10月～12月の見通し (次期見通し)			
	増加	横ばい	減少	DI値	増加	横ばい	減少	DI値	増加	横ばい	減少	DI値
全業種	25.7	46.7	27.5	-1.8	33.1	38.0	28.9	4.2	38.9	49.7	11.4	27.5
建設業	36.4	40.9	22.7	13.7	27.3	59.1	13.6	13.7	36.4	50.0	13.6	22.8
製造業	20.6	50.0	29.4	-8.8	26.5	38.2	35.3	-8.8	50.0	38.2	11.8	38.2
流通・商業	25.4	49.2	25.4	0.0	42.4	27.1	30.5	11.9	37.3	50.8	11.9	25.4
サービス業	25.0	44.2	30.8	-5.8	29.4	41.2	29.4	0.0	34.6	55.8	9.6	25.0

採算(経常利益) (%)	2004年4月～6月と比べて (前期比)				2003年7月～9月と比べて (前年同期比)				2004年10月～12月の見通し (次期見通し)			
	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値
全業種	16.8	55.7	27.5	-10.7	23.5	50.6	25.9	-2.4	28.1	59.9	12.0	16.1
建設業	18.2	63.6	18.2	0.0	22.7	63.6	13.6	9.1	22.7	63.6	13.6	9.1
製造業	11.8	50.0	38.2	-26.4	26.5	38.2	35.3	-8.8	38.2	50.0	11.8	26.4
流通・商業	15.3	59.3	25.4	-10.1	20.3	52.5	27.1	-6.8	20.3	66.1	13.6	6.7
サービス業	21.2	51.9	26.9	-5.7	25.5	51.0	23.5	2.0	32.7	57.7	9.6	23.1

採算(経常利益) の水準 (%)	2004年7月～9月 (今期)						2004年10月～12月の見通し (次期見通し)					
	黒字	やや黒字	トントン	やや赤字	赤字	DI値	黒字	やや黒字	トントン	やや赤字	赤字	DI値
全業種	15.6	32.3	30.5	17.4	4.2	26.3	20.4	31.7	35.3	10.8	1.8	39.5
建設業	13.6	36.4	36.4	13.6	0.0	36.4	9.1	36.4	50.0	4.5	0.0	41.0
製造業	17.6	32.4	23.5	26.5	0.0	23.5	26.5	29.4	29.4	14.7	0.0	41.2
流通・商業	15.3	32.2	30.5	13.6	8.5	25.4	16.9	35.6	33.9	8.5	5.1	38.9
サービス業	15.4	30.8	32.7	17.3	3.8	25.1	25.0	26.9	34.6	13.5	0.0	38.4

業況判断(1) (%)	2004年4月～6月と比べて (前期比)				2003年7月～9月と比べて (前年同期比)				2004年10月～12月の見通し (次期見通し)			
	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値
全業種	19.2	58.1	22.8	-3.6	23.4	50.9	25.7	-2.3	27.5	56.9	15.6	11.9
建設業	22.7	72.7	4.5	18.2	18.2	63.6	18.2	0.0	18.2	68.2	13.6	4.6
製造業	20.6	52.9	26.5	-5.9	26.5	44.1	29.4	-2.9	29.4	67.6	2.9	26.5
流通・商業	16.9	55.9	27.1	-10.2	20.3	50.8	28.8	-8.5	23.7	55.9	20.3	3.4
サービス業	19.2	57.7	23.1	-3.9	26.9	50.0	23.1	3.8	34.6	46.2	19.2	15.4

業況判断(2) (%)	2004年4月～6月と比べて (前期比)				2003年7月～9月と比べて (前年同期比)				2004年10月～12月の見通し (次期見通し)			
	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値
全業種	9.0	60.2	30.7	-21.7	10.8	55.4	33.7	-22.9	13.3	60.8	25.9	-12.6
建設業	9.5	66.7	23.8	-14.3	9.5	66.7	23.8	-14.3	9.5	61.9	28.6	-19.1
製造業	5.9	67.6	26.5	-20.6	5.9	70.6	23.5	-17.6	5.9	76.5	17.6	-11.7
流通・商業	8.5	52.5	39.0	-30.5	11.9	47.5	40.7	-28.8	15.3	55.9	28.8	-13.5
サービス業	11.5	61.5	26.9	-15.4	13.5	50.0	36.5	-23.0	17.3	55.8	26.9	-9.6

\* 「売上高」、「採算(経常利益)」、「業況判断」は変化方向についての設問、「採算(経常利益)の水準」は水準についての設問。

\* 「2004年10月～12月の見通し」は、昨年2003年10月～12月と比べた見通し。

\* 「売上高」のDI値の求め方 DI値 = 「増加」と答えた企業の割合% - 「減少」と答えた企業の割合%

\* 「採算(経常利益)の水準」のDI値の求め方 DI値 = 「黒字」「やや黒字」と答えた企業の割合% - 「やや赤字」「赤字」と答えた企業の割合%

\* 「採算(経常利益)」と「業況判断」のDI値の求め方 DI値 = 「好転」と答えた企業の割合% - 「悪化」と答えた企業の割合%

\* 「業況判断(1)」は、各企業の経営状況全般についての設問。

\* 「業況判断(2)」は、各企業がおかれる業界の状況についての設問。

売上高DI、採算DI、採算水準DI、業況判断DI(1)、業況判断DI(2) (規模別)

売上高 (%)	2004年4月～6月と比べて (前期比)				2003年7月～9月と比べて (前年同期比)				2004年10月～12月の見通し (次期見通し)			
	増加	横ばい	減少	DI値	増加	横ばい	減少	DI値	増加	横ばい	減少	DI値
全体	25.7	46.7	27.5	-1.8	33.1	38.0	28.9	4.2	38.9	49.7	11.4	27.5
1～9人	20.0	45.7	34.3	-14.3	29.0	42.0	29.0	0.0	44.3	41.4	14.3	30.0
10～19人	41.4	27.6	31.0	10.4	44.8	34.5	20.7	24.1	31.0	51.7	17.2	13.8
20～49人	19.5	53.7	26.8	-7.3	24.4	41.5	34.1	-9.7	19.5	73.2	7.3	12.2
50～99人	18.8	68.8	12.5	6.3	43.8	25.0	31.3	12.5	56.3	43.8	0.0	56.3
100人～	54.5	45.5	0.0	54.5	45.5	27.3	27.3	18.2	72.7	18.2	9.1	63.6

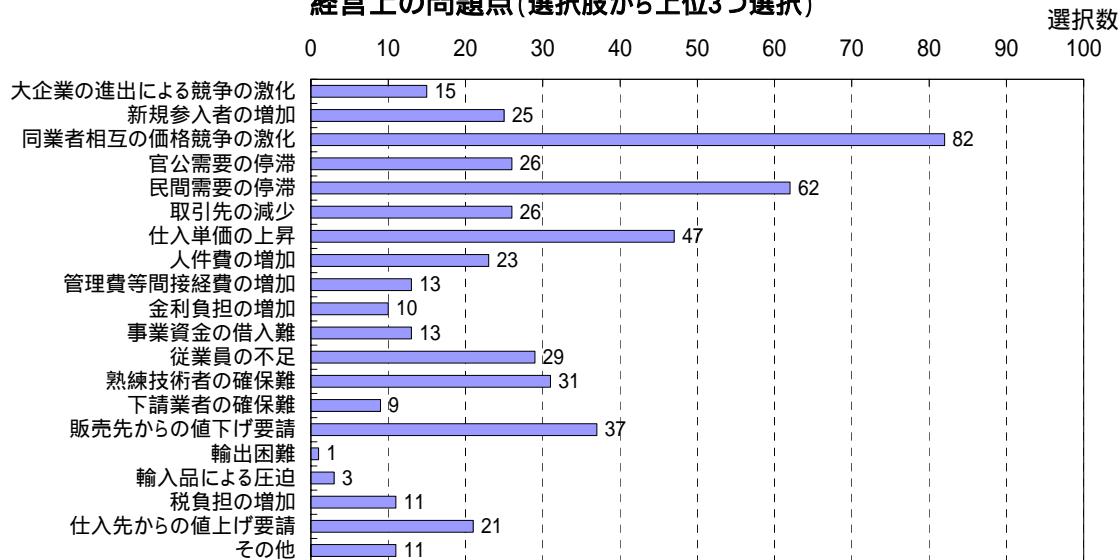
採算(経常利益) (%)	2004年4月～6月と比べて (前期比)				2003年7月～9月と比べて (前年同期比)				2004年10月～12月の見通し (次期見通し)			
	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値
全体	16.8	55.7	27.5	-10.7	23.5	50.6	25.9	-2.4	28.1	59.9	12.0	16.1
1～9人	12.9	55.7	31.4	-18.5	18.8	56.5	24.6	-5.8	35.7	51.4	12.9	22.8
10～19人	27.6	48.3	24.1	3.5	34.5	37.9	27.6	6.9	17.2	69.0	13.8	3.4
20～49人	14.6	56.1	29.3	-14.7	17.1	53.7	29.3	-12.2	14.6	73.2	12.2	2.4
50～99人	12.5	68.8	18.8	-6.3	37.5	37.5	25.0	12.5	37.5	56.3	6.3	31.2
100人～	27.3	54.5	18.2	9.1	27.3	54.5	18.2	9.1	45.5	45.5	9.1	36.4

採算(経常利益) の水準 (%)	2004年7月～9月 (今期)						2004年10月～12月の見通し (次期見通し)					
	黒字	やや黒字	トントン	やや赤字	赤字	DI値	黒字	やや黒字	トントン	やや赤字	赤字	DI値
全体	15.6	32.3	30.5	17.4	4.2	26.3	20.4	31.7	35.3	10.8	1.8	39.5
1～9人	12.9	28.6	32.9	15.7	10.0	15.8	14.3	32.9	38.6	10.0	4.3	32.9
10～19人	10.3	41.4	27.6	20.7	0.0	31.0	13.8	34.5	37.9	13.8	0.0	34.5
20～49人	19.5	24.4	36.6	19.5	0.0	24.4	24.4	29.3	31.7	14.6	0.0	39.1
50～99人	18.8	43.8	18.8	18.8	0.0	43.8	25.0	31.3	43.8	0.0	0.0	56.3
100人～	27.3	45.5	18.2	9.1	0.0	63.7	54.5	27.3	9.1	9.1	0.0	72.7

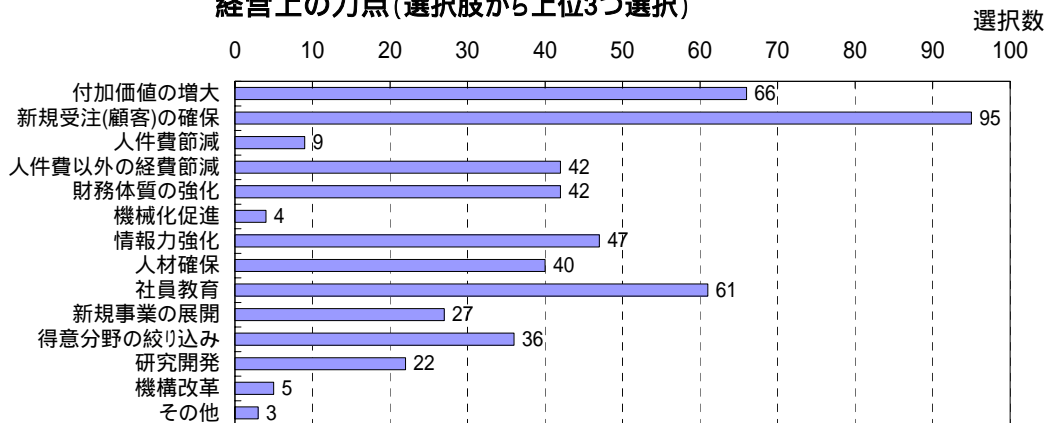
業況判断(1) (%)	2004年4月～6月と比べて (前期比)				2003年7月～9月と比べて (前年同期比)				2004年10月～12月の見通し (次期見通し)			
	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値
全体	19.2	58.1	22.8	-3.6	23.4	50.9	25.7	-2.3	27.5	56.9	15.6	11.9
1～9人	17.1	57.1	25.7	-8.6	21.4	51.4	27.1	-5.7	25.7	51.4	22.9	2.8
10～19人	27.6	55.2	17.2	10.4	31.0	51.7	17.2	13.8	27.6	65.5	6.9	20.7
20～49人	9.8	61.0	29.3	-19.5	9.8	56.1	34.1	-24.3	22.0	61.0	17.1	4.9
50～99人	31.3	56.3	12.5	18.8	31.3	43.8	25.0	6.3	31.3	62.5	6.3	25.0
100人～	27.3	63.6	9.1	18.2	54.5	36.4	9.1	45.4	54.5	45.5	0.0	54.5

業況判断(2) (%)	2004年4月～6月と比べて (前期比)				2003年7月～9月と比べて (前年同期比)				2004年10月～12月の見通し (次期見通し)			
	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値
全体	9.0	60.2	30.7	-21.7	10.8	55.4	33.7	-22.9	13.3	60.8	25.9	-12.6
1～9人	8.7	53.6	37.7	-29.0	11.6	52.2	36.2	-24.6	11.6	58.0	30.4	-18.8
10～19人	13.8	55.2	31.0	-17.2	13.8	58.6	27.6	-13.8	13.8	69.0	17.2	-3.4
20～49人	9.8	65.9	24.4	-14.6	12.2	53.7	34.1	-21.9	19.5	56.1	24.4	-4.9
50～99人	6.3	68.8	25.0	-18.7	6.3	50.0	43.8	-37.5	6.3	62.5	31.3	-25.0
100人～	0.0	81.8	18.2	-18.2	0.0	81.8	18.2	-18.2	9.1	72.7	18.2	-9.1

### 経営上の問題点(選択肢から上位3つ選択)



### 経営上の力点(選択肢から上位3つ選択)



### 経営上の努力(自由記述回答)

イメージ広告(ラッピングバス) コストの洗い直し 受注戦略の再構築(・ゼネコン体質からの脱却を図り、営業中心の体制を構築していく。・コストの削減による競争力の強化。)(建設業)  
設備の更新に力を入れました。(建設業)

7~9月単独での対策は特になし。財務体質改善(長期借入圧縮)、社員教育を継続して実施。業界そのものも成熟状態が続いており、価格依存度が高まるとは思えず、そろそろ自社の強みを明確の打ち出す、事業モデルの再構築に着手する時が来た。これまでの社内改革をベースにしたモチベーションの向上をベースのし、ダイナミックに事業モデルを打ち出したい。(製造業)

・設備投資、品質向上に向けて努力中 ・工場内外整備、清掃(製造業)

・経費削減 ・ホームページの作成(流通・商業)

・仕入単価の上昇による為の利益の圧縮を少なくする為、やはり市況を上昇(値上げ)の努力を行っている。(流通・商業)

・仕入の金額をおさえる(在庫の減少) ・インターネットの活用によるPR ・組合のよるPR活動の開始(業界全体としての活動)(流通・商業)

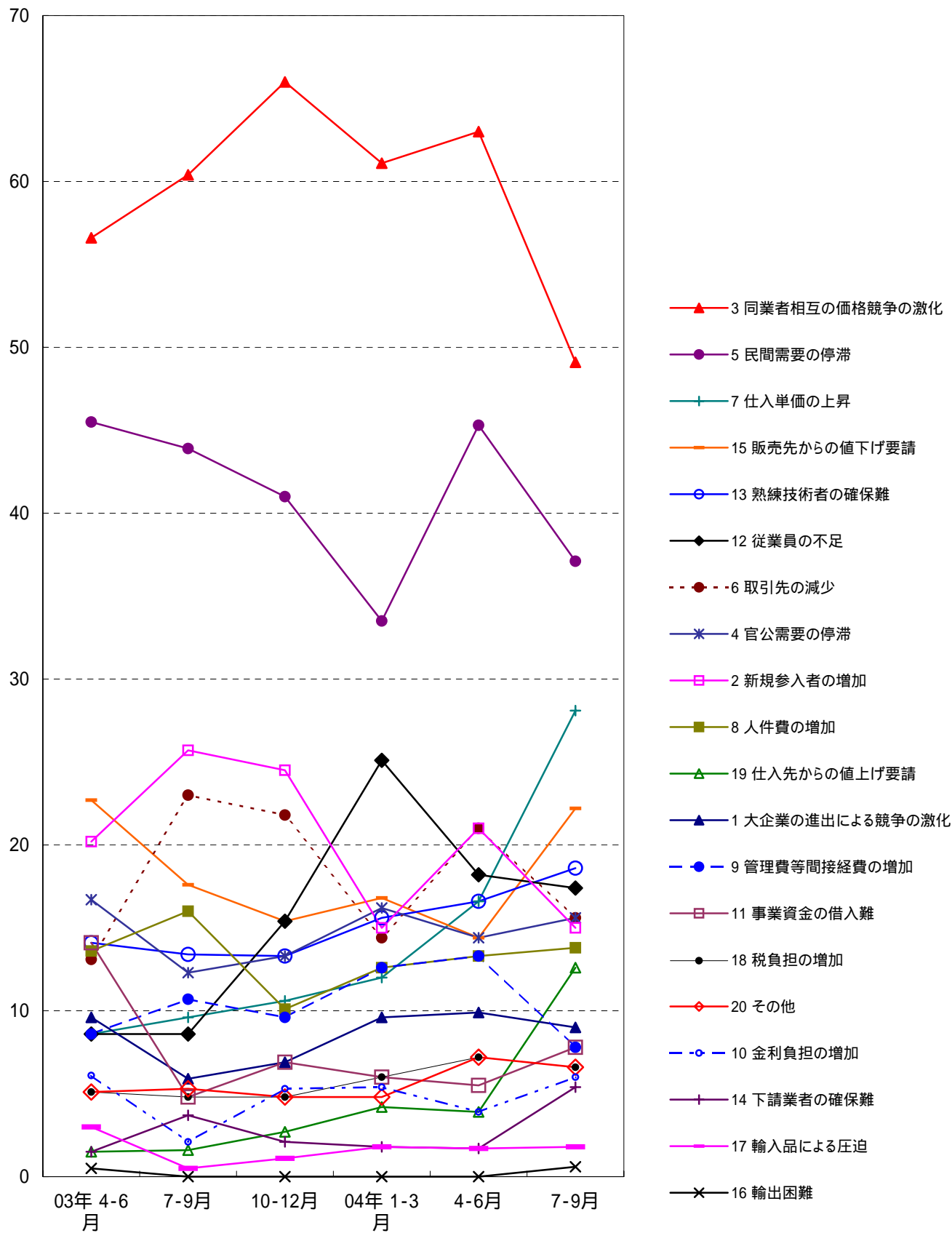
研究開発(独自分野の強化)(サービス業)

四国各県の台風により顧客の方々が多数被害に遭われました。そのメンテに追われるような日々であり、特記事項はありません。(サービス業)

新規出店をしました。今までの店舗とは違い30~40年前の流行の店の再現です。新規の楽しみ方としてまずまず高い評価を得ています。今後は、コンセプトの違うお店を10月にもう一店舗考えています。(サービス業)  
館内客室で古い客室をリニューアルし、一番新しく感じる客室にしました。昨年10月より商品力アップの投資を終了させた。旅行エージェントの値下げ要請を断れる施設となった。今後は料理提供方法とか内容のグレードアップを図る予定。(サービス業)

## 経営上の問題点の推移 (2003年4-6月 ~ 2004年7-9月)

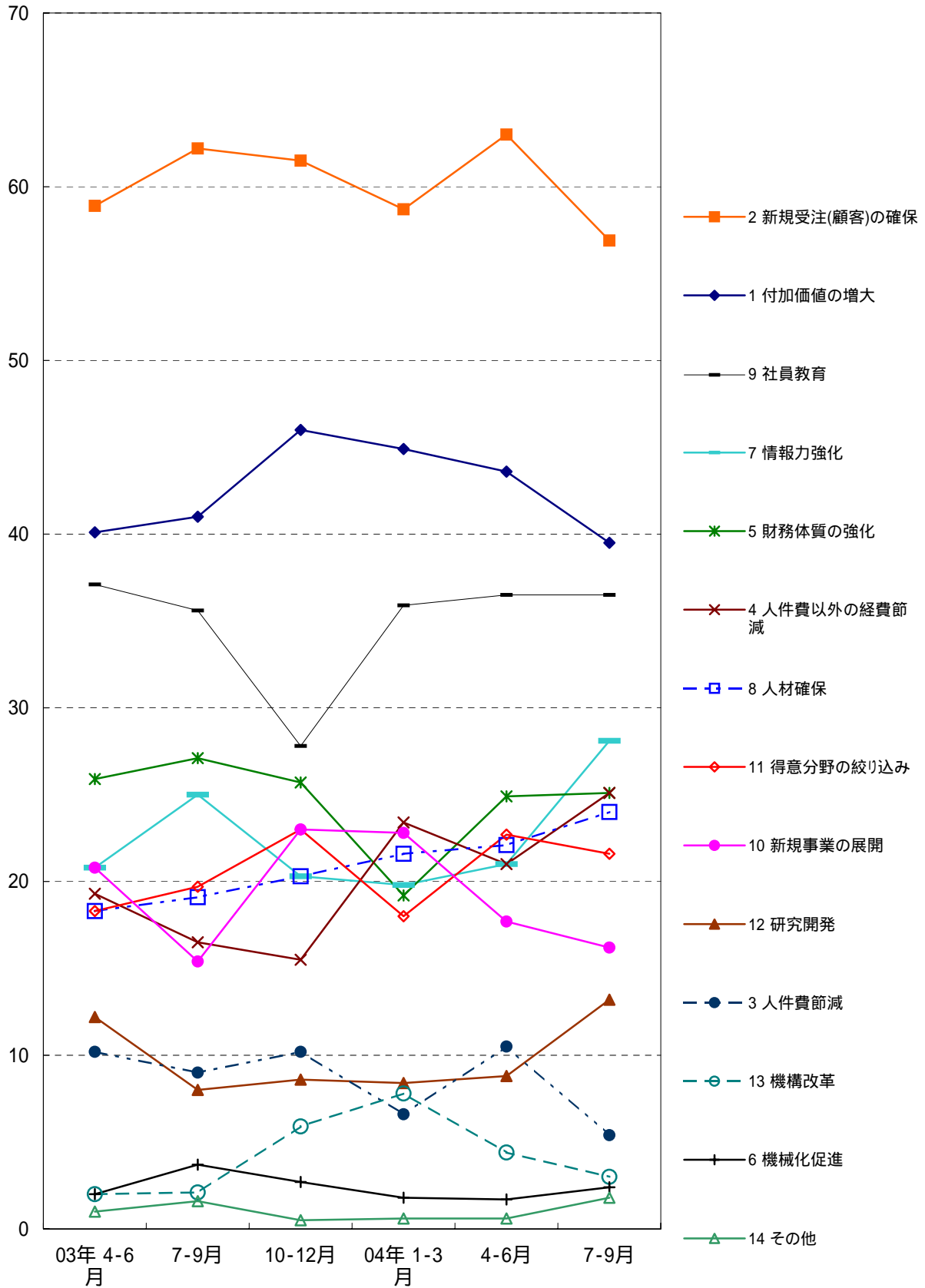
% (回答数に占める割合)



(備考) 選択肢から3つを選んだ際の選択率。凡例は選択率の高いものから並べた。番号は設問における各選択肢の番号。

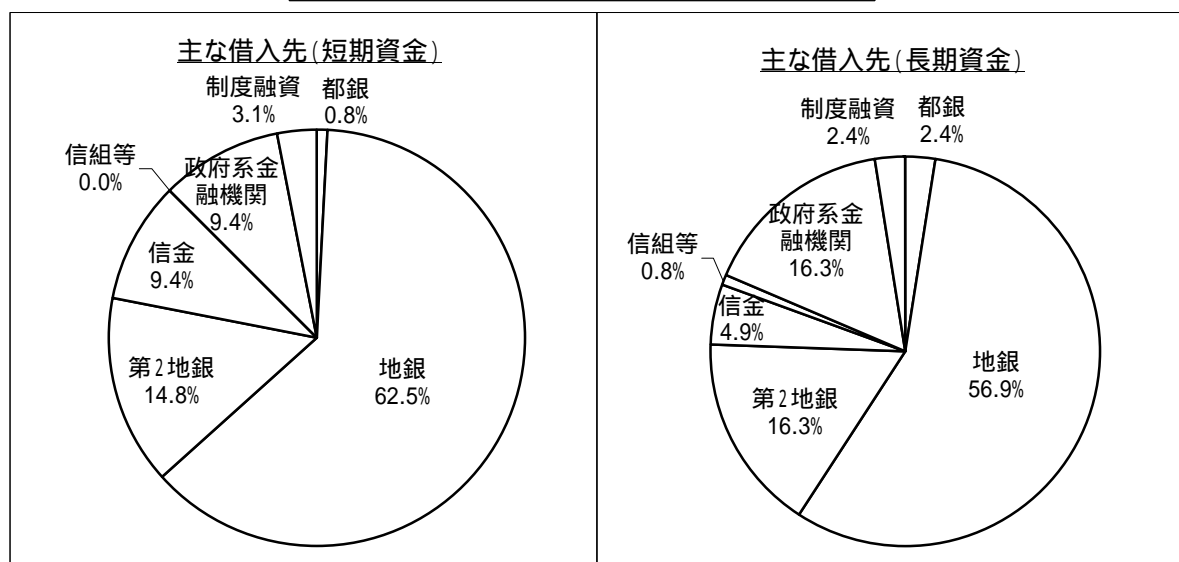
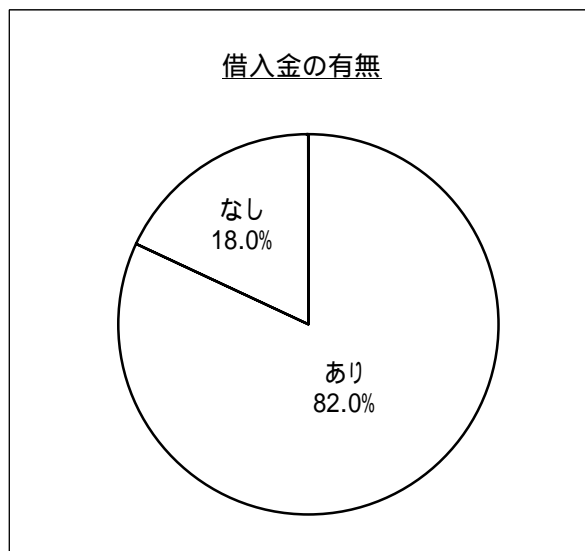
## 経営上の力点の推移 (2003年4-6月 ~ 2004年7-9月)

% (回答数に占める割合)



(備考) 選択肢から3つを選んだ際の選択率。凡例は選択率の高いものから並べた。番号は設問における各選択肢の番号。

## 特別調査・・・金融状況



### 金融機関への要望(自由記述回答)

情報交換の相手としたい!(建設業)

企業風土や事業モデル,そして我々の情熱を重要な担保と認識頂きたい(数字に表れない重要な成功条件である)。それ以上の要望なし。(製造業)

会社の将来性,可能性に対する対応をしっかりと,それによつての判断もして欲しい。「貴社のような業種はあまり分からないので・・・」という取り組みでは不安。(流通・商業)

担保・個人保障の有限化。 地元中小企業振興へ戦略的な貸金供給の実施と日常的な情報提供を可能にする行員の能力開発(リレーションシップバンキングの徹底)(流通・商業)

金融機関に対しては,これ以上借入を増やす事は資金繰りを圧迫するので,金利を下げてもらうことを望む(サービス業)

女性の再就職,起業家に対する企業の貢献を支援して欲しい(サービス業)

政府系金融機関等の制度融資実行に関して,もう少しハードルを低く柔軟に運用してもらえないものか。要はもっと使い勝手を良く(使い易く)してもらいたい。(サービス業)

## 業種別DI

短期資金 (%)	2003年7～9月(前年同期)と比べて								2004年4～6月(前期)と比べて			
	借入金を増減				借入難度				借入金利			
	増加	横ばい	減少	DI値	困難	不変	容易	DI値	上昇	横ばい	低下	DI値
全業種	16.4	49.2	34.4	-18.0	9.4	68.8	21.9	-12.5	10.9	79.7	9.4	1.5
建設業	16.7	55.6	27.8	-11.1	5.6	77.8	16.7	-11.1	22.2	72.2	5.6	16.6
製造業	15.4	65.4	19.2	-3.8	15.4	65.4	19.2	-3.8	3.8	84.6	11.5	-7.7
流通・商業	21.7	39.1	39.1	-17.4	8.7	60.9	30.4	-21.7	10.9	78.3	10.9	0.0
サービス業	10.5	47.4	42.1	-31.6	7.9	76.3	15.8	-7.9	10.5	81.6	7.9	2.6

長期資金 (%)	2003年7～9月(前年同期)と比べて								2004年4～6月(前期)と比べて			
	借入金を増減				借入難度				借入金利			
	増加	横ばい	減少	DI値	困難	不変	容易	DI値	上昇	横ばい	低下	DI値
全業種	22.8	42.3	35.0	-12.2	14.6	65.9	19.5	-4.9	16.4	74.6	9.0	7.4
建設業	22.2	55.6	22.2	0.0	11.1	61.1	27.8	-16.7	11.1	72.2	16.7	-5.6
製造業	17.2	44.8	37.9	-20.7	17.2	65.5	17.2	0.0	10.3	79.3	10.3	0.0
流通・商業	22.2	40.0	37.8	-15.6	11.1	62.2	26.7	-15.6	13.6	77.3	9.1	4.5
サービス業	29.0	35.5	35.5	-6.5	19.4	74.2	6.5	12.9	29.0	67.7	3.2	25.8

## 規模別DI

短期資金 (%)	2003年7～9月(前年同期)と比べて								2004年4～6月(前期)と比べて			
	借入金を増減				借入難度				借入金利			
	増加	横ばい	減少	DI値	困難	不変	容易	DI値	上昇	横ばい	低下	DI値
全体	16.4	49.2	34.4	-18.0	9.4	68.8	21.9	-12.5	10.9	79.7	9.4	1.5
1～9人	20.8	45.8	33.3	-12.5	16.7	70.8	12.5	4.2	14.6	75.0	10.4	4.2
10～19人	9.1	63.6	27.3	-18.2	9.1	81.8	9.1	0.0	22.7	72.7	4.5	18.2
20～49人	15.2	42.4	42.4	-27.2	0.0	66.7	33.3	-33.3	6.1	84.8	9.1	-3.0
50～99人	14.3	42.9	42.9	-28.6	7.1	35.7	57.1	-50.0	0.0	78.6	21.4	-21.4
100人～	18.2	63.6	18.2	0.0	9.1	81.8	9.1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

長期資金 (%)	2003年7～9月(前年同期)と比べて								2004年4～6月(前期)と比べて			
	借入金を増減				借入難度				借入金利			
	増加	横ばい	減少	DI値	困難	不変	容易	DI値	上昇	横ばい	低下	DI値
全体	22.8	42.3	35.0	-12.2	14.6	65.9	19.5	-4.9	16.4	74.6	9.0	7.4
1～9人	27.3	43.2	29.5	-2.2	22.7	63.6	13.6	9.1	14.0	72.1	14.0	0.0
10～19人	25.0	41.7	33.3	-8.3	16.7	66.7	16.7	0.0	20.8	75.0	4.2	16.6
20～49人	13.3	36.7	50.0	-36.7	3.3	73.3	23.3	-20.0	20.0	73.3	6.7	13.3
50～99人	28.6	50.0	21.4	7.2	14.3	42.9	42.9	-28.6	14.3	71.4	14.3	0.0
100人～	18.2	45.5	36.4	-18.2	9.1	81.8	9.1	0.0	9.1	90.9	0.0	9.1

## 業種別DI

資金繰りの状況 (%)	2004年7月～9月(今期)					
	余裕あり	やや余裕あり	順調	やや窮屈	窮屈	DI値
全業種	9.6	13.9	41.6	28.3	6.6	-11.4
建設業	0.0	18.2	54.5	22.7	4.5	-9.0
製造業	17.6	14.7	38.2	26.5	2.9	2.9
流通・商業	8.5	11.9	42.4	28.8	8.5	-16.9
サービス業	9.8	13.7	37.3	31.4	7.8	-15.7

## 規模別DI

資金繰りの状況 (%)	2004年7月～9月(今期)					
	余裕あり	やや余裕あり	順調	やや窮屈	窮屈	DI値
全体	9.6	13.9	41.6	28.3	6.6	-11.4
1～9人	8.7	11.6	34.8	36.2	8.7	-24.6
10～19人	6.9	17.2	41.4	24.1	10.3	-10.3
20～49人	9.8	12.2	51.2	22.0	4.9	-4.9
50～99人	6.3	25.0	56.3	12.5	0.0	18.8
100人～	27.3	9.1	27.3	36.4	0.0	0.0

# 第6回 愛媛大学・愛媛県中小企業家同友会景況調査 E D O R (2004年7-9月期)

愛媛大学総合地域政策研究会 愛媛県中小企業家同友会共同実施

会社名 \_\_\_\_\_

主な仕事の内容 \_\_\_\_\_ (初回または変更時のみ)

従業員数 常勤役員を含む正規従業員数( )人  
 派遣・契約社員を含む臨時・パートアルバイト数( )人

[1] 貴社の7～9月の売上高と採算(経常利益)(該当する番号に をして下さい。)

	2004年4～6月と比べて	2003年7～9月と比べて	2004年10～12月の見通し
売上高	1.増加 2.横ばい 3.減少	1.増加 2.横ばい 3.減少	1.増加 2.横ばい 3.減少
採算(経常利益)	1.好転 2.横ばい 3.悪化	1.好転 2.横ばい 3.悪化	1.好転 2.横ばい 3.悪化

\* [1]と[3]の設問にある「2004年10～12月の見通し」は、前年同期に当たる2003年10～12月と比べた見通しになります。

[2] 貴社の採算(経常利益)の水準(該当する番号に をして下さい。)

	2004年7～9月	2004年10～12月の見通し
採算(経常利益)の水準	1.黒字 2.やや黒字 3.収支トントン 4.やや赤字 5.赤字	1.黒字 2.やや黒字 3.収支トントン 4.やや赤字 5.赤字

[3] 7～9月の業況判断(該当する番号に をして下さい。)

	2004年4～6月と比べて	2003年7～9月と比べて	2004年10～12月の見通し
業況判断(1)	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化
業況判断(2)	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化

\* 業況判断(1)は、貴社の経営状況全般について判断をして下さい。

\* 業況判断(2)は、貴社がおかれる業界の状況について判断をして下さい。

[4] 貴社の7～9月の経営上の問題点(深刻なものを下記より上位3つまで選び、番号に をして下さい。)

- 1.大企業の進出による競争の激化
- 2.新規参入者の増加
- 3.同業者相互の価格競争の激化
- 4.官公需要の停滞
- 5.民間需要の停滞
- 6.取引先の減少
- 7.仕入単価の上昇
- 8.人件費の増加
- 9.管理費等間接経費の増加
- 10.金利負担の増加
- 11.事業資金の借入難
- 12.従業員の不足
- 13.熟練技術者の確保難
- 14.下請業者の確保難
- 15.販売先からの値下げ要請
- 16.輸出困難
- 17.輸入品による圧迫
- 18.税負担の増加
- 19.仕入先からの値上げ要請
- 20.その他( )

[5] 貴社の10～12月の経営上の力点(下記より上位3つまで選び、番号に○をして下さい。)

- 1.付加価値の増大
- 2.新規受注(顧客)の確保
- 3.人件費削減
- 4.人件費以外の経費節減
- 5.財務体質の強化
- 6.機械化促進
- 7.情報力強化
- 8.人材確保
- 9.社員教育
- 10.新規事業の展開
- 11.得意分野の絞り込み
- 12.研究開発
- 13.機構改革
- 14.その他( )

[6] 7～9月に経営上の努力としてどのようなことを試みましたが、また、今後どのようにしようと考えていますか。ご自由に記述して下さい。

ここからは今回の特別調査(金融状況(第2回))になります。……………

[7] 貴社の7～9月の金融状況(該当する番号に をして下さい。)

借入金の有無…( 1.あり 2.なし)

次の と は、 で「1.あり」を選択した場合のみお答え下さい。

主な借入先(下記より1つ選んで下さい。)

短期資金(運転資金)	1.都銀	2.地銀	3.第2地銀	4.信金	5.信組等	6.政府系金融機関	7.制度融資
長期資金(設備資金)	1.都銀	2.地銀	3.第2地銀	4.信金	5.信組等	6.政府系金融機関	7.制度融資

借入金の増減、借入難度、借入金金利

	借入金の増減	借入難度	借入金金利
	2003年7～9月(前年同期)と比べて	2004年4～6月(前期)と比べて	
短期資金(運転資金)	1.増加 2.横ばい 3.減少	1.困難 2.不変 3.容易	1.上昇 2.横ばい 3.低下
長期資金(設備資金)	1.増加 2.横ばい 3.減少	1.困難 2.不変 3.容易	1.上昇 2.横ばい 3.低下

現在の資金繰りの状況…(1.余裕あり 2.やや余裕あり 3.順調 4.やや窮屈 5.窮屈)

金融機関にどのようなことを望みますか。ご自由に記述して下さい。

ご協力ありがとうございました。

お手数ですが、**9月21日(火)**までに同友会事務局までFAXでご送下さい。

同友会事務局 FAX番号 089-968-8872